

Playbook.1 2025.6.25

Crown of the beach方式について

日本で行われるこの大会は海外で行われているQueen & King of the courtとは異なりVolleyball Worldが管理するものではありません。

【システム】

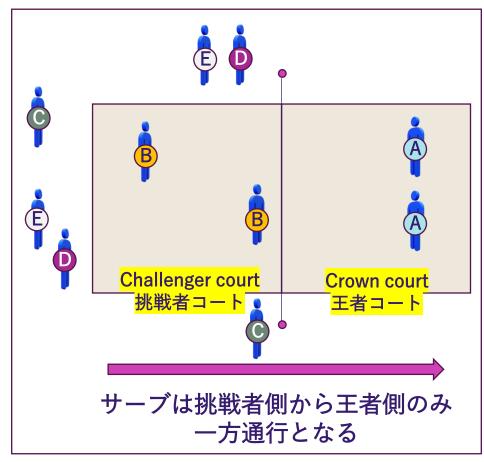
複数のチームが同時に競技をおこなう 右図は5チームの場合

AチームがいるサイドをCrown courtとし、 得点はCrown courtでしか加算されない Challenge courtからの移動時にポイントは発生しない Crown courtには1チームのみが滞在できる

B~Eチームは事前にサーブ順を決めその順に競技をおこなう

B~EチームがCrown courtに移動するためには自チームの サーブ時にブレイク(得点は入らないが得点をする行為)をする ことでCrown courtに移動することができる

ブレイクできないチームはCrown courtに移動できずポイントを 獲得することができない



Crown courtで得点を続けることがCrown of the beachへの道となる

Roundについて

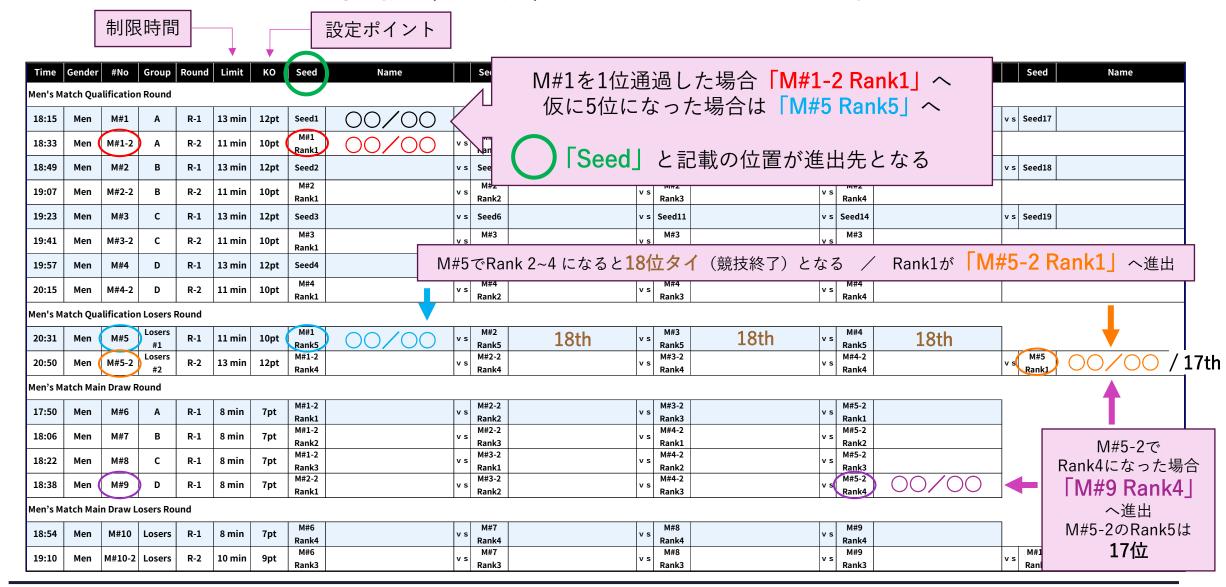
各Roundで獲得したポイントにより順位を設ける。 そのRankingにより、進出先がWinners Round/Losers Round等に分かれる。 詳細はマッチスケジュールに記載の通り、固定された進出先になる。 原則的にシードを用いるが、総当たり戦などにおいては一部イレギュラーな組み合わせも生じる。

BVT1立川立飛大会1日目の女子Qualification Roundにおいては合計6Roundを行う。 大会2日目に進出するシードの算出方法は各Roundの順位(1チーム3Round)を足したものとする。

例) Aチーム Bチーム W#1=1位(pt) W#1=2位(pt) W#3=2位(pt) W#3=5位(pt) W#5=1位(pt) W#5=3位(pt) 合計 4pt 合計 10pt

上記のように順位をポイントで換算し少ないポイント数のチーム順にシードする。 同ポイントが現れた場合にはシーディングに基づきチーム順位を決定する。

マッチスケジュールの記載(進出先)の見方について 一例



ルール詳細について

1抽選

Round 1 または単独のRoundはスタート時にカードによるCrown courtの抽選、サーブ順の抽選をおこなう。Round 2 以降はRankに合わせてCrown courtの権利、サーブ順を決定する。

②サーブ

チーム内におけるサーブ順を設けない。よって1人の選手がサーブを打ち続けることを可能とする。

サーブミスは1プレーとし、サーブの打ち直しはできない。

サーブミスはCrown courtチームへの得点にカウントしない。

タイミングはサービスのホイッスルを起点とする。ホイッスル後にタイムアップを迎えてもプレーは 続行できる。

サービスホイッスルからサーブを打つまでの時間は6秒以内とする。

Crown courtからChallenge courtに移動したときのサーブ順はChallenge court内における最後尾とする。 今大会はサーブの連続ミスによる加点を採用しない。

③タイムアップについて

00:00になるまでを競技時間内とする。

仮に00:01でブレイク/サイドアウトした場合には、次のプレーまで6秒あるが、1プレーのみ Lucky Timeとして継続する。

- ④ボールデッドからサーブまでのプレー時間 原則としてラリー終了後は次のサービスホイッスルまでを円滑にするためコート内のチームは速やかに コート移動またはコートアウトすること。 全てのRoundにおいてボールデッド(レフェリーの笛)から次のサービスホイッスルまでを 6 秒とする。 故意(休息など)に6秒を越えるような対応をした場合、Crown courtのチームはChallenge courtへ降格、 Challenge courtのチームは次のチームへサーブの権利を譲渡する。
- ⑤タイムアウト今大会はタイムアウトを設けない。
- ⑥ボールマークプロトコル/チャレンジシステム 今大会では使用しない。すべてのジャッジは主審の判断とする。
- ⑦公式練習 原則、公式練習の時間は設けない。 抽選が終わったあとすぐに試合となる。
- ⑧インターバルについて セット間を2分、マッチ間を5分で設定する。男女の転換時は10分~15分のネット張替え時間を設ける。※アクティオエキシビションマッチはセット間3分とする

9Rank

獲得したポイント順に応じてチームはRank付けされる。

同点の場合にはCrown courtに入った回数の多いチームを上位とする。

抽選後または前のRoundからコート、サーブ順が決定しておりゲームスタート時にCrown courtから始まった チームはサイドアウトが切れず獲得ポイント 0 だったとしても滞在回数を「1」とする。

同じ5点を獲得したAチームとBチームがいた場合

Aチームが5点を獲得するまでにCrown courtに入った回数が1回、Bチームは2回で合計5点を獲得したとすればBチームを上位とする。

仮に同じ5点を獲得し滞在回数も同じだった場合 1度の滞在時に、より多くのポイントを獲得したチームを上位とする。

それでも同じだった場合

抽選カードの上位順とする。

Rank上位順は上からCrown $\rightarrow 1 \rightarrow 2 \rightarrow 3 \rightarrow 4$ とする。

仮に前のRoundからコート、サーブ順が決定している場合にはそれに準ずるものとする。

1度もCrown courtに入ることができなかったチームが同Roundに2チーム以上発生した場合 前述した運用に準ずる。

⑩プレー中のInjury(怪我)について

ファーストレフェリーに復帰を宣言する。

複数のチームが同時に競技をおこなうため、Injuryの制度は設けない。

その場合、プレーを中断/中止するかはチームの判断とする。

当該チームがプレーを中断してもRankをつけるため他チームは制限時間またはKOポイントまで試合をおこなう。

中断時は他のチームがInjuryチームの順番をパスする形でおこなう。 競技に復帰する場合、記録席(タイマー席)にて競技委員に復帰を申告すものとする。 競技委員からChallenge courtの中で最後尾の位置を指示されたあと、ボールデッド中に

仮に3チームで競技を行っているときにinjuryが発生し1チームが中断状態となった場合には、 プレー時間の6秒を状況に合わせ12秒または15秒などに延長するものとする。

もしも、同時に2チーム以上がInjuryとなり1チームのみがコートに残った場合には、そのチームをRank1とする。そして残り時間の有無に関わらずそのRoundはその時点で終了する。Rank2以下の順位は⑨で記載した順に則る。

①移動/待機場所について

Crown court、Challenge courtからの移動に対してルールは設けない。 ネット下、時計回り、反時計回り全て可能とする。 Challenge courtにおける待機位置もコートエンド、コートサイドどちらでも可能とする。 ただし原則6秒間のインターバルで試合が進むため待機位置には注意すること。

①ボールリトリバー

ボール拾いのみ配置する。

ボールはChallenge courtのコートエンドに6球を出した状態でプレーする。

¹³Crownコートの位置について

原則、事前指定のサイドにて競技をおこなう。

ただしCrownコートにおいて、明らかに風下と判断された場合その位置は変更する可能性がある。 判断は大会実行委員会にて決定する。

14)給水

選手はChallenge courtにおける待ち時間、またはプレー間にあたる6秒の間において自由に給水をおこなうことができる。仮にCrownコートの選手が給水のため6秒を過ぎてコートにいなかった場合にはサービスの準備ができていなくてもホイッスルが吹かれるものとする。

プレーに障害のでない範囲で飲料水(マイボトルなど)をコートサイド・エンドに置くことを認める。

15サングラスを拭く、口や目に砂が入った場合の対応

給水同様にChallenge courtにおける待ち時間、またはプレー間にあたる6秒の間においては自由におこなうことができる。

ただし、プレーを継続することが困難な状態とレフェリーが認めた場合に限り、1回のRound中に1度だけ 競技を中断しタイマーを止めることができる。

原則は30秒とするが、最終的な判断はファーストレフェリーがおこなう。

16天候不順

試合の中断が発生し競技の進行が予定通りにおこなえない可能性がでた場合、競技形式を変更して 試合をおこなう。

例としては、時間・得点を減らす、または1つのRoundにおけるチーム数の変更の可能性がある。

17記載の無いルール/今後の運用について

立川立飛大会の中でここに記載のない事象が発生した場合、大会実行委員会において円滑な解決を図る。この大会はあくまでも日本国内における独自の大会である。

今後、同様の大会を開催するときに今大会の内容が踏襲されるとは限らない。

この大会のルールはどこにも帰属しないものとする。

18アクティオエキシビションマッチについて 同じPlaybookを使用する。



